

## 色とヒト

**ヒ** トが色を使い始めたのは10万年以上前からとされています。アフリカ大陸では、その時代の遺跡から装飾品や顔料が出土しています。日本でも旧石器時代からこうした資料は見られ、千歳市柏台1遺跡からは2万年以上前に使われていた、赤い顔料を製造する道具が出土しています。何に塗られていたかは不明ですが、はるか昔にすでに色を求めていた人々の努力や工夫がうかがえます。

苫小牧市内では、縄文時代早期（およそ7千年前）の赤い顔料であるベンガラが付着した貝や赤く塗られた土器、縄文時代後期（およそ3千年前）の漆塗櫛が出土しています。また、白滝や置戸産の黒曜石で作られた石器、平取町でしか採れないアオトラ石で作られた石斧、新潟県糸魚川周辺でしか採れないヒスイ製の装飾品なども出土しています。

また、苫小牧市内で見つかっているお墓には、赤い顔料であるベンガラがまかれているものが多く見られます。血を表しているとされたり、魔よけの意味があつたとされていますが、実際はどつだったのでしょうか。

### 赤いモノ

ベンガラで赤く塗られた土器や漆塗りの製品、コハク製の平玉などさまざまな赤い色を用いていました。

### 青いモノ

ヒスイや滑石などを素材とした装飾品、平取町産のアオトラ石を素材とした石斧などは特定の産地で採れる原材料から作られました。

### 黒いモノ

黒色漆を塗った土器や黒く輝いて鋭く切れる黒曜石、蛇紋岩製の装飾品などがあります。

## 関連イベント

### ○学芸員による展示解説スライドトーク (企画展)

日 1月9日(土)、2月11日(木) 11時～11時40分、  
14時～14時40分、3月6日(土) 11時～11時40分  
定 各25人 先着順  
申 直接会場へ

### ○まが玉をつくろう

日 1月23日(土) 10時～12時  
対 小学4年生以上  
(小学3年生以下は保護者同伴で可)  
定 15人 申し込み順  
申 1月6日(水)から電話で

### ○講演会

日 2月6日(土) 14時～15時30分  
演題 「発掘調査からわかるアイヌ文化」  
講師 平取町沙流川歴史館 館長 森岡 健治氏  
定 70人 申し込み順  
申 1月13日(水)から電話で

日 3月6日(土) 14時～15時30分  
演題 「ガラス玉が語るものー丸い小さな世界からー」  
講師 札幌国際大学縄文世界遺産研究室  
室長 越田 賢一郎氏  
定 70人 申し込み順  
申 2月9日(火)から電話で

### ○遺跡報告会

近年苫小牧市内で行った遺跡の調査について報告します。  
日 3月7日(日) 14時～15時  
講師 美術博物館 学芸員 岩波 連  
定 50人 先着順  
申 直接会場へ

同時開催!!

## 收藏品展「色と絵／彩のひみつ」

期間 1月9日(土)～3月7日(日)  
会場 第3展示室

### ●展覧会について

**絵** 画表現において、色彩は現実の色味を再現する役割のほか、立体感や寒暖感などの感覚、喜怒哀楽の感情に働きかけるような力を持ちます。画家たちは独自の視点により、色とイメージを組み合わせることで表現してきました。

本展覧会では、収蔵作品の中から赤、黄、緑、青、紫を基調とする作品をそれぞれ色ごとに紹介します。静物画、人物画、心象画、風景画などさまざまな画題の作品を色という視点から一堂に並べ、一部屋の展示室でパレットのように展覧します。画家が色彩をどのように用いたか、類似する色味の作品を比較することで、色彩に託されたイメージの差異や表現の多彩さに着目します。

## 関連イベント

### ○学芸員による展示解説スライドトーク (收藏品展)

日 1月16日(土) 11時～11時40分、  
2月13日(土) 14時～14時40分  
定 各25人 先着順  
申 直接会場へ

